

検 印

## 第3学年2組 道徳学習指導案

平成24年6月8日(金) 第3校時  
生徒数 37名  
場 所 3年2組 教室  
指導者 富永 真琴

- 1 主 題 名 人間としての気高さ【内容項目3-③】  
関連項目 希望、勇気、強い意志【内容項目1-②】

資料名 「天使の声」(出典 彩の国の道徳「心の絆」平成24年3月 埼玉県教育委員会)

### 2 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする道徳的価値について

内容項目3-③は「人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きること  
に喜びを見いだすように努める」ことをねらいとしている。自己満足ではなく、人から褒められたり、認められ  
たりするという喜び、人間としての誇りや深い人間愛、崇高な人生を目指し、同じ人間として共に生きていくこ  
とへの深い喜びを見いだすことに気付いたとき、人間は強く、気高い存在になりうると考える。また、関連項目  
として、内容項目1-②は「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ」こと  
をねらいとしている。

人間だれもが、誘惑に負けたり、易きものに流れたりするなどの弱さを持っている。その反面、相手を思いや  
る優しさを持ち、夢や目標に向かって努力するなどの強い心も持っている。中学生の時期は、自分のよさより、  
自分の弱いところに目が向きがちで、自分に自信がもてないでいることもあるが、一方では、崇高な人生を送り  
たいという人間のもつ気高さを追い求める心もある。自分を含め、人はだれでも人間らしいよさをもっているこ  
とを認めるとともに、決して人間に絶望することなく、だれに対してもその人間としてのよさを見いだしていく  
態度を育て、内なる自分に恥じない、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことにつなげ  
たい。そして、気高さとその職について最後までやりきった心の内を考えさせたい。

#### (2) 生徒の実態について

本学級の生徒は、道徳の授業に意欲的に取り組める生徒が多く、授業中の発言も活発である。学級全体が落ち  
着いた雰囲気でも物事に取り組んでいる。授業中は、いろいろな角度からみた意見が毎時間発言され、仲間の意見  
を聞き、自分にない考え方を素直に受け入れられる生徒が多い。また、班での意見交換時に、3ポイント発言を  
意識させ、仲間の意見をもとに自分の意見を発言できるようになってきた。道徳ノートに毎時間資料と感想を貼  
り貯めていること、教室内に道徳の掲示物をするなどで、今までの道徳授業をいつでも振り返りができている。  
しかし、道徳的価値に迫ることのできる生徒ばかりではないので、全員が同じ思いを心に残せる授業の工夫が必  
要である。また、道徳授業の行い方や意味などを、第1回の授業の最初に簡単にオリエンテーションを行い確認  
した。

本学級では事前アンケートを行った。質問と結果は以下のとおりである。

### 道徳アンケート

(平成23年5月11日 3年2組 37名)

#### 1. 誇りある生き方とは、どんな生き方だと思いますか？

- ・いつも人を思って行動する人 (・思いやり ・人のために自ら行動できる)
- ・自分を見た人が真似したいと思うような生き方
- ・笑顔がいつもある生き方 ・前向きで堂々とした生き方 ・いろいろな人に感謝ができる生き方
- ・誰にでも平等に接する生き方 ・みんなが尊敬できる生き方 ・夢や目標にむかってがんばっている生き方
- ・自分に自信をもって前へ進む生き方 ・自分が生きていることに感謝して、1秒1秒を大切にしている生き方
- ・人に譲れないものを持つ生き方 ・自分の意志を持っていて前向きな生き方
- ・誠実で正義感がある生き方 ・自分も他人も信じられる生き方 ・何ごとにも全力でやる生き方

## 2. 美しいと感じるのはどういうことですか。

- ・自分には利益がなくても、だれか困っている人がいたら手助けしたりすること
- ・その人の行動を立派だと感じたとき ・生きていること ・努力していること
- ・大きな壁をこえたとき ・みんなが嫌がることをやっている人をみたとき
- ・美しい自然に触れたとき ・みんなが笑顔でいること ・何ごとにも一生懸命にやっている姿
- ・自分が完ぺきではないということ ・だれにでも優しく、心がきれいな人
- ・新しい命がうまれる瞬間 ・他人の考え方から、新しい考えを見いだしていくこと
- ・協力し、支え合って生きていくこと

## 3. 人の生き方に感動したことはありますか？また、それは誰でどんな人ですか？

- ・被災した方々が上を向いて歩いている姿 ・被災地に行ってボランティアや寄付をした芸能人
- ・母親 いろいろなことがあっても前向きだから。
- ・つらいことを乗り越えて努力をして夢をかなえている人
- ・辻井信行さん、乙武洋匡さん、 障害を抱えながらも一生懸命がんばっている姿に感動した。
- ・日本が大きな地震で大変なことになったとき、日本人よりも先に募金してくれた外国人
- ・知らない人でも助けられる人
- ・マザーテレサ 貧しい人や病気の人々に自分の人生をささげたから
- ・元担任 先生の1つ1つの言葉が心に響き、先生に出会って自分が変わった気がする
- ・余命一カ月の花嫁 1日1日を大切に生きていること

### 【考察】

質問1の誇りある生き方についての質問では、人のために行動するという意見、周りに良い影響を与えるという意見が多かった。質問2では、人の行動を美しいと感じる生徒が多く、今までの生活でまわりにそのような状況が多くあったようである。質問3も質問2と同様に、有名人や親族、担任などさまざまな場面でそのような人物に出会い、まわりの良い影響を受けていることが分かった。

### (3) 資料について

本資料は、宮城県南三陸町の防災無線で町民に避難を呼び掛け、津波の犠牲になってしまった遠藤未希さんを主人公とした読み物資料である。この資料には、必死に町民の命を助けようとした遠藤未希さんの行動や心情が細かく描かれている。

未希さんは、宮城県南三陸町の役場の危機管理課に働いている職員であった。2011年3月11日、未曾有の東日本大震災の時、津波警報を必死に流し続けた未希さん。生徒には、未希さんが自分は犠牲になるとは思ってもなく、自分の仕事である防災無線を町民のために放送し続けた場面を、未希さんの心の焦りや葛藤からそれでも町の人を助けたいという思いがあったことを考えさせたい。未希さんの放送で多くの人々の命が救われたが、未希さんは津波にのまれ亡くなってしまったが、他人を第1に思いやる優しい心や全ての人への愛情とも言える他者への思いやりなどを未希さんの生き方から生徒に感じさせたい。また、人間としての誇り、心の強さや気高さに焦点を当てて考えさせ、命の大切さについても触れながら、自分の生き方を追求する力をはぐくみたい。

## 3 学校研究主題との関連

多彩な表現力を身につけ、心豊かに生きる生徒の育成  
— 言語活動を充実させ、その活用力を高める —

本時においては、個人で考える場面と小グループで考える場面を設ける。教師との対話、仲間との話し合い、自分との対話をさせ、自分の考えを自分の言葉で仲間に伝えることで表現力を身につけさせる。自分の考えを発言しやすい環境を整えるために、発言者に体を向け他人の意見を聞くことを徹底させた。仲間の意見を聞き、その意見をもとに自分の考えを発表することで、話し合いの活性化と意見の深化を図る。その手立てとして、道徳の時間は3ポイント発言を取り入れている。

**①前の人の発言を生かそう！**

「〇〇さんの〇〇という意見に付け加えて・・・」

「〇〇さんの意見はとてもよかったですと思います。私も同じ意見です。」

**②前の人の意見に対して自分の意見を述べる**

Yes 「〇〇さんの意見に対して賛成です。」

No 「〇〇さんの意見に対して少し違う意見があります。」

Both 「〇〇さんの意見に対して賛成もできますが少し違うとも思います。」

**③なぜ、そう思ったのか理由を加える**

詳しく理由を述べるのが大切です。

クラスの仲間の意見を受け入れる体制をきちんとつくり、自分にはない考え方や視点を持たせて多彩な表現力と豊かな心を育成する。

4 教育に関する3つの達成目標との関連

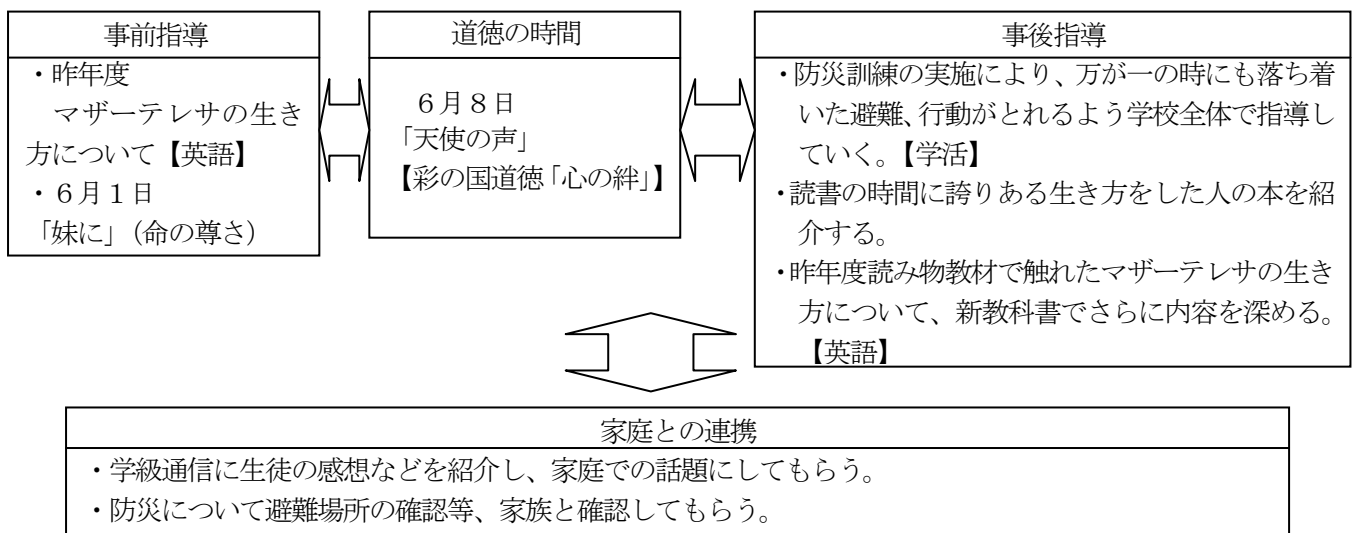
埼玉県「教育に関する3つの達成目標」のうち、「規律ある態度」は豊かな心をはぐくむ前提である。授業規律を守り、落ち着いた授業態度で授業に臨ませたい。自分を含め、人はだれでも人間らしいよさをもっていることを認めるとともに、決して人間に絶望することなく、だれに対してもその人間としてのよさを見いだしていく態度を育てることが大切である。自分を奮い立たせることで目指す生き方、誇りある生き方に近付けるということに目を向けられるようにする。規律ある態度の育成はそのうえで充実した生き方について考えることができる態度であることから、「規律ある態度」との関連性が見いだせる。

5 学力向上プランとの関連

本校の3年生は、真面目に資料を読んだり考えたりすることはできるが、なかなか自分の意見に対して自信がもてず、発表する勇気が持てないことが課題である。道徳の授業においては、自分の考えを自分の言葉で発言させ、道徳的価値へと迫りたい。

I C T機器の活用については、黒板のほかに大型液晶モニターを活用し、導入で行うアンケート結果の表示や、資料の絵を表示する。このことによって、生徒の興味関心を高め、価値への方向付けを図ることができると考える。また、黒板のスペースを広く活用でき、生徒の発言を効果的に板書することができ、範読や教師の発問に対し、意欲的に考え、発言する手助けにもなると考えられる。

6 他の教育活動等との関連



7 ねらい

人間がもつ心の強さや気高さに触れ、自分に恥じない誇りある生き方をしていこうとする心情を育てる。

8 学習指導過程

段階	学習内容と主な発問	予想される生徒の反応	◎指導上の留意点、☆評価の観点（方法） 3つの達成目標【3達】 学校研究主題【研】、学力向上プラン【学】
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつをする。</li> <li>事前アンケート結果を確認する。</li> <li>自分と違う考え方を受容する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつをしっかりとる。</li> <li>大型モニターと教師の説明に集中する。</li> <li>アンケート結果に興味を示し、反応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎指導上の留意点、☆評価の観点（方法） 3つの達成目標【3達】 学校研究主題【研】、学力向上プラン【学】</li> <li>・道徳の授業に対する心構えを指導する。【研】</li> <li>◎アンケート結果はICT機器を活用し、テンポよく展開する。【学】</li> <li>◎見やすい文字の大きさ、テレビを置く位置にする。</li> <li>◎自分の考え方と異なる考え方を理解させる。</li> <li>◎自分の考えを思うままに言えるように助言する。【学】【研】</li> </ul>
展開 35分	<p>1 状況を知る。 ・登場人物、あらすじを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>主人公 遠藤未希さん 遠藤未希さんは宮城県南三陸町役場の危機管理課で防災無線を担当している。 平成23年3月11日、午後2時46分。マグニチュード9.0という未曾有の巨大地震が東北地方を中心に発生。</p> </div> <p>2 資料範読 ・資料の範読を聞き、未希さんになったつもりで、未希さんの気持ちが表れているところ、みんなで話し合ってみたいところに線を引く</p> <p>3 線を引いたところを発表する。</p> <p>4 主人公の心情を中心に話し合う ・以下の質問に対し、小グループ内で自分の意見を発表し合い、意見を共有する。 ・その後、全体で発表をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像に集中する。</li> <li>・印象に残ったところに線を引きながら範読を聞く。</li> <li>・挙手をして発表する。</li> <li>・発表者と同じところに線を引いたら挙手をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎震災時の映像と実際の防災無線の音声を流し登場人物と状況を大型テレビに映し出し、確認させる。</li> <li>◎本時の資料を配布する。</li> <li>◎本文中に線を引かせる。</li> <li>◎机間を巡りながら範読し、生徒がどんなところに線を引いているのかを把握する。</li> <li>◎生徒の気が散らないようにゆっくり静かに歩く。</li> <li>◎時と場に応じた適切な言葉遣いができる。【3達】</li> <li>◎どこに線を引いたか発表させる。</li> <li>◎授業で最初の挙手・発言になるので、発表しやすい環境を作る。積極的に発表させ、後の発問にも意欲的に取り組ませる。</li> <li>◎挙手する生徒がいない時や、発問に関連する部分に線を引いている生徒がいたら意図的に指名する。</li> <li>◎同じ所に線を引いた生徒に挙手させる。</li> <li>◎場面絵を表示し、話題とする場面を想像させる。【学】</li> <li>◎補助発問や助言を行い自分自身との対話を深める。【研】</li> <li>◎3～4人の小グループで意見を発表させ、道徳的価値に迫らせる。その際、小グループで意見をまとめず、意見を共有させる。【学】</li> <li>◎先生や友だちの発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができる。【3達】</li> </ul>

	<p>①地震と津波におびえながらも「落ち着かなくては・・・」と防災無線の放送をする未希さんはどんな気持ちだったのだろうか。</p> <p>②「潮が引き始めた」この声をきいたときの未希さんの気持ち</p> <p>③津波が迫る中、未希さんはどんな思いでずっと言い続けていたのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「はやくみんなに知らせないと」</li> <li>・「私があせったらみんなを不安にさせてしまう」</li> <li>・「でも落ち着かない」</li> <li>・「こわい」</li> <li>・「無理だ、どうしよう」</li> <li>・「私は大丈夫。堤防がある！」</li> <li>・「私がいる高さなら助かるだろう」</li>   <li>・「津波がくる！」</li> <li>・「こわい」</li> <li>・「逃げなくちゃ」</li> <li>・「町民に伝えないと」</li> <li>・「死にたくない」</li>   <li>・「私は放送をしなければ」</li> <li>・「私は大丈夫だからみんなを助けなくてはいけません」</li> <li>・「放送をしたらすぐに避難しよう」</li> <li>・「一人も犠牲者を出してはいけません」</li> <li>・「一人でも多くの人を助けたい。」</li> <li>・「無我夢中だった」</li> </ul>	<p>人任せにしないで、一人一回自分の意見を自分の言葉で発表させる。【学】</p> <p>◎机間を巡りながら各グループの話し合いに耳を傾け、必要に応じて助言をする。話し合いの3つの言葉を利用させる。発言したら、黒板に書いた意見の上にマグネットのネームプレートを貼り、だれの意見なのかを明確にする。【研】</p> <p>◎任務を果たそうとする未希さんの強い意志を感じさせる。【研】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎補助発問として、混乱している時の未希さんの気持ちを葛藤させる。 「逃げなくちゃ」⇔「放送しないと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「今までにない潮の引きかたに驚いた」</li> <li>・「間に合わないかも」</li> <li>・「みんなを助けたい」</li> <li>・「はやくみんな高台に避難してほしい」</li> </ul> </div> <p>◎自分のことより人のことを考えて行動する未希さんの優しい心や全ての人への愛情とも言える他者への思いやりなど人間としての誇りを感じさせる。【研】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎補助発問として、ここまでやりとげられたのは未希さんのどんな思いがあったからかを問う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなを助けたい」</li> <li>・「大切な人を守りたい」</li> <li>・「犠牲者を出したくない」</li> <li>・「みんなに早く逃げてもらいたい」</li> </ul> </div> <p>◎使命感についての意見がでた場合は、板書せずに、肯定の助言のみとする。</p>
<p>終末</p> <p>10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の授業を通して自分を振り返り、考えたことを書く。</li> <li>・教師の話聞く。</li> <li>・あいさつをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と道徳的価値の関わりを書く。</li> <li>・授業で自分が成長したことを書く。</li>   <li>・あいさつを大きな声でする。</li> </ul>	<p>☆人間がもつ心の強さや気高さに触れ、自分に恥じない誇りある生き方を追求しようとしているか。(道徳プリント)</p> <p>◎机間を巡りながら生徒の感想様子を見る。</p> <p>◎感想を数人に発表させる。</p> <p>◎教師の話をきちんと聞けるようにする。</p> <p>◎心のノートP. 80を朗読し、余韻を残す終末とする。</p>

9 評価

[生徒側の評価] 人間がもつ心の気高さについて考えることができたか。

[教師側の評価] 題材をもとに仲間との話し合いを深め、心情に迫り、自分に恥じない誇りある生き方をしているという意欲をもちらせることができたか。

10 板書計画・大型モニター画面計画

(1) 板書

<p>○津波が迫る中で放送をし続ける未希さん</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「みんなを助けたい」</li><li>・「はやくみんな高台に避難してほしい」</li><li>・「私は放送をしなければならぬ」</li></ul>	<p>⇔</p>	<p>潮が引き始めたぞ</p> <p>逃げなくちゃ・こわい</p> <p>大丈夫だと思ってる</p>	<p>○「落ち着かなくては・・・」と防災無線の放送をする未希さんの気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「はやくみんなに知らせないと」</li><li>・「私があせつたらみんなを不安にさせてしまう」</li><li>・「でも落ち着かない」</li><li>・「こわい」</li><li>・「無理だ、どうしよう」</li></ul>	<p>「天使の声」</p> <p>主人公 遠藤未希さん 防災無線担当 9月に結婚</p> <p>誇りある生きかた</p>
---	----------	--	---	--

(2) 大型モニター

アンケート結果を映し出す

主人公 遠藤未希さん

**情況**  
遠藤未希さんは宮城県南三陸町役場の危機管理課で防災無線を担当している。  
平成23年3月11日、午後2時46分。マグニチュード9.0という未曾有の巨大地震が東北地方を中心に発生。

## 1.1 資料分析表

資料名『天使の声』

### 【スタートの条件・状況】

遠藤未希さんは宮城県南三陸町役場の危機管理課で防災無線を担当している。  
平成23年3月11日、午後2時46分。マグニチュード9.0という未曾有の巨大地震が東北地方を中心に発生。

主人公  
・遠藤未希さん

### 【話題につなげたい場面】

かつて誰も経験したことのない震度7の地震、津波の大きさ6メートルと放送室に届けられ、防災無線の放送をする場面

### 【キーワード】

(落ち着かなくて)と、大きくひと呼吸して・・・

### 【話し合いの柱・質問】

おびえながらも防災無線の放送をする未希さんの気持ちを考える。

大津波警報が発令され、潮が引き始めた

潮がひきはじめたぞおー。

潮が引き始めたぞおー。の声を聞いた時の未希さんの気持ちを考える。

焦る気持ちを抑えながら三浦さんと放送をし続けた場面

両手でマイクを握りしめて立ち上がり、必死の思いで言い続けた

津波が迫る中、未希さんはどんな思いでずっと言い続けていたのだろうか。